

反転授業の中間報告

徳島大学 総合教育センター 金西 計英

徳島大学 総合教育センター 吉田 博

授業の基本情報

- 授業名： 情報メディアと教育（共通教育）
- 期 間： 2014年度後期（10月～2月）
- 時 間： 火曜の1・2時限
- 受講数： 111名（約100名）
- グループ： 23グループ（4～6名）

授業の目的（シラバス）

現代社会は情報化社会と呼ばれています。インターネットの普及を受け、Twitter, LINE, Facebook等、新しいメディアが続々と生まれています。こうした複雑化するメディアを使いこなす能力が、持続可能な社会を実現する上で求められます。東日本大震災のときにも、ソーシャルメディアへ注目が集まりました。我々は新しいメディアに埋もれて生活していますが、必ずしも、メディアのことが分かっているわけではありません。本授業では、インターネット上のソーシャルメディアを取り上げ、その仕組みや特徴について理解することを目指します。その上で、情報化社会において、適切にメディアを使いこなせる能力の育成を目指します。

授業の反転授業化

- これまでは、橋本メソッドで実施
- 本年度は反転授業化へ
 - 橋本メソッドがそもそも反転授業と親和性が高い
 - 授業中は基本的に議論
 - 事前準備のコンテンツ化

授業の方式

- 事前学習 + 橋本メソッド(アクティブラーニング)
 - 事前学習用教材を準備
 - ビデオ教材を自作
 - LMS上に教材をアップロード
 - その他事前学習用PDFを作成
 - 業中の次回課題の説明を廃止

2014年度の課題の内容

| テーマ | 競合数 |
|---------------------------------------|-----|
| 1. 徳島大学の広報の誌をどう考えるか | 2 |
| 2. Twitter馬鹿をどうすればよいか | 4 |
| 3. ソーシャルメディアは我々の生活を豊かにするか | 9 |
| 4. 武雄市図書館問題をどう考えるか | 3 |
| 5. ゲームは社会を変えるか | 7 |
| 6. この授業の良い点、改善点とその改善策は | 2 |
| 7. MOOCの襲来で日本の大学は無くなるのか | 4 |
| 8. 銃を作れる3Dプリンタは問題ないのか | 6 |
| 9. オタクは危険なのか | 7 |
| 10. 違法ダウンロードによって業界は豊かになっているのか【学生提案課題】 | - |
| 10. 自分撮り写真の著作権は誰のものか | - |

ポイントの加算項目

チーム得点の内訳

| 内 容 | 得点 |
|---------------------------------|-------|
| メンバー全員が授業開始時にそろう | 1点 |
| レジュメ点 | 1点 |
| 発表をエントリーする(最大2回) | 3点 |
| レジメのいいね点 | 2or3点 |
| 発表選抜点 | 3点 |
| 発表から外れたが、優秀なチーム (本授業では佳作と呼ぶ) | 2点 |
| 発表の投票で勝つ | 8点 |

個人得点の内訳

| 内 容 | 得点 |
|----------|------|
| 大福帳のコメント | 0~3点 |
| 質疑応答時の質問 | 1~3点 |
| 期末試験 | 50点 |

「情報メディアと教育」(2014)の授業の流れ

| 授業回 | 主な内容 |
|------|--|
| 1 | 授業の概要説明、目的の確認 授業の進め方について アイスブレイク・チームの仮決定 |
| 2 | 講義「情報メディア概論1」 チームの確定 仮エントリー・授業方法の最終確認 |
| 3 | 講義「情報メディア概論2」 プレゼンテーションの仕方 |
| 4～14 | 各テーマによる発表及び質疑応答 |
| 15 | 期末試験 |
| 16 | 総括授業 |

1 コマの対面授業の流れ

- ① 大福帳の返却(授業開始前)
- ② 大福帳のコメントに対するフィードバック+目標(5分)
- ③ 発表できる2チームの選抜結果と選抜理由の説明(5分)
- ④ 2チームによる発表(発表は10分以内)
- ⑤ 質疑応答(30分)
- ⑦ 次回のテーマに対するエントリーの確定(5分)
- ⑧ 大福帳の記入(5分)

事前の準備

① ビデオ教材の視聴、その他資料のダウンロード

② チームによるレジメ作成

- 調査・アンケート等
- レジメの作成

③ チームによる発表準備

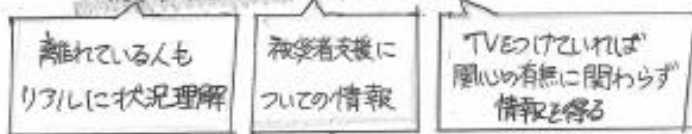
- プレゼン用スライド等の作成
- プレゼンのリハーサル

チームによる協調作業

東日本大震災においてメディアは何だったのか！?

2011.11.18 提出

一般の視聴者にとっては



テレビ

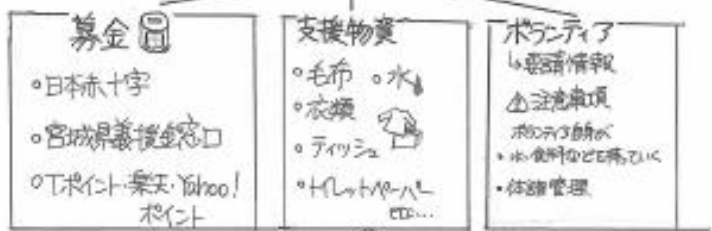
視覚やサウンドに情報を受け取れるような情報発信手段

被災者にとっては

- 取材することによる安全確認
- 被害状況を知ってもらう手帳

ラジオ
大キラジオが放送する番組をインターネットを通じて、平日の時間帯に配信サービス

→震災直後一時的に全国に開放された日本全国で一日中、開けた



ラジオ

被災地の地方ラジオ局が災害報道中心の放送体系を行った



インターネット

使用者が相互に情報をやりとりできる情報共有手段

情報共有

- RT**
 - ウェブのURLのまとめ
 - 避難所
 - 必要な支援物資
 - TVで注目されない地域人の情報
 - 注意の喚起
- アイコン**
 - アイコンと笑顔の画像に励運動
- 動画共有**
 - 関係のない情報と混在

Ustream

動画共有サービス
さまざまなチャンネルネットワークで構成

被災地である東北放送ラジオ(14台市)ラジオ福島 支援放送

とちぎテレビ
などが震災直後一時的にUstreamで視聴できた

民放テレビがないので、全国放送で災害情報を放送していいからと、Ustreamが開放した

RTのしくみ

公式RT
原文のままURLがサイトできないので情報が集まりにくい。
削除できる。
サイトに自分のURLが載っている場合表示されず、URLが隠れる。

非公式RT
複製してURL、コメントができる。
削除がいつでもできる。怒りもあるためデモが掲載されやすい。
コメントが増えるにつれて原文がなくなっていく。



東日本大震災において、情報発信、情報共有の面でメディアは必要不可欠の存在した。当時の状況を理解するために被災者はラジオも新聞もテレビも主要な情報源としていた。両者が同じように利用していたのはインターネット。インターネットでは切近な情報のやりとりがなされていました。しかしインターネットでは情報の信頼性が下がり、混乱した人も多くなりました。私たちはこの今のメディアの情報を照らしあわせ、必要を正しい情報を取り出すということを求めています。

授業の改善点について

- 他チームのレジメをみたい 90%
- 発表できなかつたときの救済措置 90%
- 質問する人が固定化している 90%
- 発表できないチームがいる 50%
- レジメの提出期限 90%
- いいねシールについて 40%
- 授業に対する目的意識 50%
- テーマを学生が考える
 - 学生提案型課題を増やす 30%
 - 30ぐらいのテーマから学生が選ぶ 90%

反転授業にしてみても (主観)

- コンテンツに対して好意的
 - 学外から見えるようにしてほしい
 - はやくアップしてほしい
 - 基本的に90%ほどが利用
- 予習は定着(共同してるところもあり)
- **ポートフォリオを作りたい**と言いだした
- 授業中も学生の熱意はさまざま
 - 一部の学生は授業を楽しんでいる感じ(二極化)

学生の授業外学習時間

本授業に関する1週間の授業外学習時間 (時間数を記述する設問)

エントリーしたときの学習時間

無回答を除く学生の授業外学習時間の平均

2010年度 **3時間3分**

2011年度 **5時間3分**

エントリーしていないときの学習時間

無回答を除く学生の授業外学習時間の平均

2011年度 **1時間53分**

徳島大学生の授業の予習・復習時間

Q. あなたは、**1日平均**何時間くらい授業の予習復習をしていますか。
ただし、試験期間中は除いてください。

